

平成 26 年(2014 年) 3 月 25 日
 子ども・子育て支援審議会資料
 こども部 子育て支援室

教育・保育提供区域の設定について

市町村は、「量の見込み」「確保方策」を設定する単位として、地域の実情に応じて保護者や子どもが居宅より容易に異動することが可能な区域（「教育・保育提供区域」）を設定することになっており、小学校区、中学校区、行政区などが想定されています。

教育・保育提供区域ごとに、計画期間における「幼児期の学校教育・保育の量の見込み（必要利用定員総数）」を定める必要があり、認定の区分（※）に加え、0歳、1～2歳、3～5歳の3区分で設定することになっています。

- ※認定の区分 3～5歳、幼児期の学校教育のみ
- 3～5歳、保育の必要性あり
- 0～2歳、保育の必要性あり

教育・保育提供区域ごとに、設定した「量の見込み」に対応するよう「教育・保育施設（※1）及び地域型保育事業（※2）による確保の内容及び実施時期（確保方策）」を設定します。

- ※1 認定こども園、幼稚園、保育所
- ※2 小規模保育事業、家庭的保育事業など

（イメージ）

		1年目			2年目			・・・
		3～5歳 学校教育 のみ	3～5歳 保育の必 要性あり	0～2歳 保育の必 要性あり	3～5歳 学校教育 のみ	3～5歳 保育の必 要性あり	0～2歳 保育の必 要性あり	
①量の見込み（必要利用定員総数）		300人	200人	200人	300人	200人	200人	・・・
② 確 保 の 内 容	認定こども園、幼稚園、保育所 （教育保育施設）	300人	200人	80人	300人	200人	150人	・・・
	地域型保育事業	/	/	20人	/	/	30人	・・・
②－①		0	0	▲100人	0	0	▲20人	・・・

教育・保育提供区域ごとに、計画期間における「地域子ども・子育て支援事業の量の見込み」を定める必要があります。

ブロックを細かくすると、必要な保育量等の確保が難しくなる恐れがあります。

案1 市内を6ブロックに分ける

- ・ 千里ニュータウン・万博・阪大
- ・ 山田・千里丘
- ・ 千里山・佐井寺
- ・ 片山・岸部
- ・ 豊津・江坂・南吹田
- ・ JR以南

案2 市内を3ブロックに分ける

- ・ 千里ニュータウン・万博・阪大 }
・ 千里山・佐井寺 }
・ 山田・千里丘 }
・ 片山・岸部 }
・ 豊津・江坂・南吹田 }
・ JR以南 }